

レジ袋削減から始めるごみ減量

レジ袋の
削減に
ご協力ください

マイバッグを
持って買い物に!



地球にやさしく資源を大切に



西宮市レジ袋削減等に関する協定締結事業者

18事業者58店舗(順不同)

(株)アカシヤ・(株)いかりスーパーマーケット・イズミヤ(株)・(株)イトーヨーカ堂
(株)関西スーパーマーケット・(株)グルメシティ近畿・生活協同組合コープこうべ
(株)ダイエー・三伸商事(株)富士スーパーマーケット・(株)ライフコーポレーション
(株)ピーコックストア・(株)阪食・(株)阪急阪神百貨店(西宮阪急)・(株)コクミン
西宮市商店市場連盟(ビバ甲子園協同組合)・タキヤ(株)・(株)ニシイチドラッグ
兵庫六甲農業協同組合農協市場館(彩菜やまぐち)

西宮市レジ袋削減推進委員会

◀ レジ袋削減の意義 ▶

1年間に全国の家庭からごみになるレジ袋は、約305億枚(1人1日約1枚)になると言われております。これを原油の使用量に換算すると55.8万klになり、日本の年間原油輸入量の約1日分にあたります。

レジ袋は消費者にとって身近で便利な容器包装であるため大量に消費され、再利用されることなく廃棄される場合が多い反面、消費者が自らの意思で「レジ袋を断る」ことができます。

地球温暖の抑制・・・焼却により発生するCO₂を抑制することができる。
石油資源の消費抑制・・・レジ袋は石油から作られるプラスチック製品。
廃棄物の減量化、廃棄物処理コストの軽減・・・使用したレジ袋の大半がそのまま捨てられており、また、水気の多い生ごみも簡単に捨てられることから、ごみの重量を増やすことになる。

自然環境への悪影響・・・自然状態では分解しない特徴があり、半永久的に自然界に存在し続け野生動物などが誤飲するなどの被害が増加している。

ライフスタイルの見直し・・・買い物は誰もが行う日常的な行為の一つであり、レジ袋削減の取り組みのきっかけでもある。また、大量消費、使い捨ての文化、ライフスタイルそのものの見直しにつながり、その行動が地球環境や資源の節約、自然環境への配慮など環境意識の形成にもつながる。

“チャレンジにしのみや25”

市では、平成20年3月に『平成30年に25%のごみ減量』を目標とする「西宮市ごみ減量推進計画“チャレンジにしのみや25”」を策定しました。この計画は、1人1日当りのごみ排出量を平成17年度(基準年度)1,161グラムから平成25年度(中間目標年度)950グラム(18%減量)、平成30年度(最終目標年度)870グラム(25%減量)にすることを目標としており、市民・事業者・行政が連携・協働してごみ減量・再資源化の推進に取り組んでいます。